

第 1 分科会(登山文化部門)

11 月 16 日(日)9:30～12:00

ganさん旅の歴史を語る～世界67ヶ国放浪中

岩村 和彦(gan さん)

★★ 講演概要 ★★

「落ち着きのない子だねえ」と言われ続けた子供の頃から旅の素養があったのかも知れない。白老町を流れる白老川の上流に「魔の谷」と名付けた秘境があって、行き帰りにはヒッチハイクをするような小学生だった。

当然だが背の立たない川や海は遊泳禁止だ。仲間を引き連れ、海や川原でたき火をしては焼き芋で腹ごしらえだ。そんな私が表向き学級委員や児童会副会長とは笑わせる。

5年生の時勝手に壁新聞を作ったとクラスで大問題になる。2時間目の休み時間に学校を抜け出しお袋が働いていた室蘭まで数台ヒッチハイクしてたどり着く。学校もお袋も騒動に目を丸くする。実質旅の歴史はここから始まる。

中学の音楽の時間は地図を持ち込み世界の国々の空想旅に忙しい。口をパクパクさせて歌っているフリは得意業だ。

初めての海外は大学入って早々に北米大陸だが資金はない。必ず返すから、とオヤジから30万円借りる。勿論全額返済済みだ。

まだ成田空港開港前の昭和50年羽田空港に友人知人が駆け付け見送ってくれてから早50年になる。大学4年間家庭教師二件に日雇い労働、映画エキストラとアルバイトに明け暮れる。この間5回も長期渡航しながら4年で卒業出来た。それは偏に学費値上げ反対を叫ぶ学生自治会の学校封鎖のお陰に尽きる。

社会人になってからも10連休を作っては山に登らず自転車でアジアを走り続ける。そして気付けば既に67ヶ国に足跡を残している。

今人生で悔いがあるかと問われたら、沢登りの本以前に旅の本を出していないことだ。

どの旅も基本は全て行き当たりばったりだ。スマホなどない時代、「地球の歩き方」と旅人や地元民との会話だけが情報源だ。その頃旅をしていたのは覚悟を持った旅好きか、いわゆる高度経済成長社会からドロップアウトした若者かのどちらかだ。

もとより旅のやり方に正解不正解などはない。ツアーでなければ旅が出来ない人は多いだろう。人それぞれの旅のスタイルがあっていい。

気力体力が膨大に必要な私の旅は誰にもはお勧めしない。が、心の中で憧れる人は相当数いる筈だ。企画演出主演全て一人でやるなどこれ以上の贅沢はあるのかと。

古希を迎えた私が後何年こんな旅を続けられるかは分からない。幸い時間はたっぷりあるが老いは確実に押し寄せている。

今度とお化けには遇ったことが無い。見る前に飛べ。二つの思いがこれまでの行動の原点だ。近々そのあなたとどこかの国でお逢い出来たらこんな嬉しいことはない。そこがうらぶれた木賃宿なら私の旅には一層似つかわしい。

但し見かけても私を「gan さん」とは呼ばないで。海外では KAZUHIKO を省略し「Hiko」と名乗っているからね。

講師プロフィール



岩村和彦

昭和 30 年北海道豊浦町生まれ 白老町育ち 札幌市在住の 70 歳
室蘭栄高校、早稲田大学商学部卒

社会人になってから山を始める。程なく沢登りに夢中になり遡行回数は 500 ではきかない。通称「gan さん」が山の世界の呼称だ。昂じて「北海道沢登りガイドブック」(北海道新聞社刊)など 4 冊の著書と、北海道新聞、朝日新聞、雑誌でコラムの連載も始める。

旅の本格的始まりは高校時代に遡る。以来国内外を自転車やバックパッカーとして歩き続け足跡を残した国は 67 を数える。その原動力となったのは旺盛な好奇心と 40 年前に始めたランニングによる体力だ。北海道マラソンは第 2 回目から 19 年連続参加。サブスリー(フルマラソン 2 時間台)も達成する。サロマ湖 100 キロマラソンも 15 回完走し、サロマンブルー(10 回以上完走)の名誉と足型が常呂町にある。鉄道ファンで乗り鉄呑み鉄を自称。2017 年当時の JR 全線乗車を果たす。献血は今年 6 月 621 回で終了。

私生活では孫 10 人に恵まれるが名前覚えるので精一杯だ。座右の銘は「命と安全以外は屁みたいなものだ」、山のトイレを考える会前代表



現地人になった gan さん



インドはこんな路上に牛がいる
シーンがそこかしこ
～Nellore ネロール



気になった男
～確かに



ベジタリアン定食
～皿がない？

南アジア紀行



ヒンズー教寺院
合

中米カリブ海紀行



メキシコの英雄と



この教会少なくとも 1800 年代



落書きか芸術か？



セブンイレブンで
ウォッカを買う



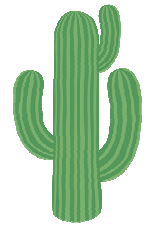
ビールだけもらう
45 ペソ 360 円



旧市街の大聖堂



ワンピースが素敵！



ビールとピザで 200 円



サンフランシスコ教会 (ホンジュラス)



コロンビアでは街中
壁画だらけ



神様に見えた
ジェシー



ゲバラはまだ人々の
心に生きている



ウランバートル
ガンダン寺



敦煌の夜市



蘭州では牛肉麵が有名



莫高窟のシンボル九層



敦煌レプリカの仏像



神々しいキルギス共和国の山



カザフ美人発見



色彩も鮮やか(ウズベキ
スタン・サマルカンド)



典型的タジク人



懐かしのブレジネフ
書記長(ここも旧ソ連)



色塔の高さは
10mはある



ついにカスピ海到達



サマルカンド
旧市街地にて



ウズベキスタ
ンのモスク



バクーはヨーロッパ風
の町並み



バクーの夕暮れ